

# ソ連における標識コハクチョウについて(回答)

## (山階先生あて)

A・A・キッシスキー

Ilyichev 教授がソ連における首輪標識をつけた Bewick's Swans (コハクチョウ) の情報の要請書と共に、あなたの手紙を私に送って参りました。以前と同様、私たちが標識をつけた白鳥のほぼ全部にわたるすばらしい観察をしてくれた日本人観察者の自発的な気力とその正確さに心を打たれています。彼ら(日本人)の努力により Chaur 湾の標識掛けの能率はほぼ 100 パーセントに達しました。

私はソ連における標識付の一覧表をお送りします。(別表) 毎年これら一覧表は正規のルートで日本の Ringing Center (標識のリングをつける研究所) に送られていました。1977 年までこの交通関係に切れ目を生じたと思っています。

1978年4月5日のあなたの手紙によりますと、5羽から12羽のオレンジ色の首輪をつけた Bewick's Swan が日本で冬を過ごしていることとなります。

1976年から1976年には標識をつけられた12~13羽の白鳥を見たという確かな興味ある報告を受取っています。1977年には更に16羽の白鳥にオレンジの首輪標識がつけられましたが、今年の冬(1977から78にかけての)は吉井先生から013 C、022 Cと他に3羽の標識をつけた(コード番号は読みとれなかった)白鳥を(確認したという)便りを受け取りました。今後もっと多くの観察が行われれば大変嬉しいのですが。

今日まで私たちは日本の緑の首輪標識のついた1羽の Whooper Swan (オオハクチョウ) と1羽の Bewick's Swan (コハクチョウ) を確認しています。(別表)

東シベリアにおける観察は 日本のように一ヶ所に多数の白鳥が集まるというようなこともなく広大な土地にまばらにしか住んでいないので貧弱なものです。私たちは Penzhina 峡谷で春の渡りの時にオレンジ色の標識をつけた白鳥をたった一度見ただけです。それはハンターの報告で詳細は不明です。なお、その他標識取りつけ地域内の各地で2、3は認められています。

この標識づけ及び確認の計画は来年以降も続けられます。私たちはこれらのデータを(多数の蓄積となれば)正規のルートで日本の鳥類学会員や観察者と共に処理していくこと。また、共同のレポートを作ったり、共同の出版物を作ることが、真に価値あることだと考えています。私はそのことがまた、日ソの渡り鳥条約の成立準備に良き貢献をし得るものと信じています。あなたの忠告は大へん貴重なものです。

敬 具

A-A. Kistchiski

ソ連における日本の標識をつけた白鳥の発見

1. Cygnus (白鳥属) Cygnus (幼鳥?)  
1032 緑 (金属バンド・ナンバー 140-01032) 射殺体で 1977年5月10~11日 Paronaysk (Sakhalin サハリンの) 地区 北緯 49°12' 東経 143°09' Nevskoye 湖南部
2. Cygnus bewickii (幼鳥?) 008Y 緑 (金属バンドナンバー 140-00008) 射殺体で Shilka 河口で 1976年5月28日。Khabarousk (ハバロスク) の Okhatsk 地区 北緯 59°20' 東経 143°20'

# 1974年より1977年までにソ連においてオレンジ色の 首輪標識をつけたコハクチョウ一覧表

Tchaun 湾域 (北緯 68° 50' 東経 170° 30')

1974年	成鳥手前の白鳥	1羽	8月3日	オレンジ	001C	
1975年	若鳥	2羽	8月 不明	オレンジ	{ 017C 018C }	一腹の鳥
1976年	若鳥	10羽	8月29日	オレンジ	004C・005C・006C	** ** } 一腹の鳥
			8月31日	オレンジ	014C	
			8月30日	オレンジ	002C・003C・007C	} 一腹の鳥
					008C・013C	
1977年	若鳥	16羽				
			8月16日	オレンジ	016C <sup>x</sup>	} 一腹の鳥
			8月19日	オレンジ	022C	
			8月17日	オレンジ	011C・012C・015C・020C	全部一腹の鳥
			8月18日	オレンジ	023C・025C・026C・027C・031C	全部一腹
			8月18日	オレンジ	035C・038C	一腹
			8月19日	オレンジ	024C・028C・029C	一腹

- 凡例 ( × 1977年9月標識取りつけ区域の近くで射殺体で発見さる。  
\* 1977年7月30日Tchaun 湾岸で観察さる。(親が飼育中の鳥ではない)